



16日(日)はPTA環境整備作業の日です。

早朝からの作業になります
 がよろしくお願ひいたします。

一緒に育てていきたいです

～PTA総会でお願ひしたこと～

学校がめざしていることにご理解いただきたく、総会の中で、お時間をいただいております。

総会でお話したこと①

「自分で考えたり判断しなければならない場面」をあえてつくります

今年度は、子ども達に「自分で考え行動する力をつけましょう。」と話してスタートしました。そのため学校では、「自分で考えたり判断したり“しなければならない”場面」を多くつくっていきます。自分でやることが増えればきっと失敗することも増えるでしょう。また、友だちと集団で生活していますから、「思いどおりにならないこと」もあることでしょう。もめごと起きるかもしれません。でも、「いじめ」は許されませんが、“もめごと”はあるものです。発達・成長のための通り道でもあります。そんなときこそ、「どう考えて行動するか」を勉強している大切なチャンスだと思いたいのです。

子ども達は、「注意し合ったり、我慢したり、折り合いをつけたり」と大人になる練習をしています。また、「我がまますを言わない」とか「すぐ怒らない」とか「疲れていてもがんばって働く」とかというように自分を鍛えてもいます。子どもは急には大人になりませんから、「まだ、いい」ではなくて、5歳でも10歳でも、そのときそのときに、大人になるためにできる準備を少しずつしなければなりません。

学校では、このように、「自分で考えたり判断したりする場面」をわざとつくっていきますから、少し子ども達に任せたり、成り行きを見ていたりすることがあるかもしれません。ただし、ほったらかしにはしませんので、「今が大切な勉強をしているときなのかなと」見守っていただきたいと思います。(もちろん、気になるときは、担任にいついていただけてください。)

総会でお話したこと②

「子どものためになるかどうか」を考えていきたいです」ということ

どこのおうちでも、「子どものため」を考えていただいています。気をつけたいと思うことは、我々大人が「まわりや時代に流されないように頑張らなければいけないということ」ではないでしょうか(もちろん、常識から外れたり自己流が過ぎたりしないようにしなければいけません)。

例えば、ものを買ってあげるとき。「〇〇さんも持っているから買って！」と言われて「高価過ぎるかな」と思いながらも買ってあげてしまうことがあります。また、「うちの子だけ持っていないのはかわいそう」とか「仲間外れになるかも」を理由にしてしまいがちですが、本当にそうでしょうか。

また、寝る時刻。「よその家では何時であっても、『うちがうち!』ということも必要です。

そんなことを考えているなか、先日、「いいなあ」と思うことがありました。「前までは車で送られて来ていたのに今年は歩いてくる」という子が増えているのです。おうちの方が、途中から歩くようにさせてくださっているのだそうです。「あなたのことを考えてくださっているんですね。」と子どもに声をかけました。子どもはにっこり。子どもも分かっているのです。ですから、どうか、「子どものためになるか」を考えていただいて、今からでも行っていただきたいと思います。

もしも子どもから「えー」と言われるとしたら、

- それだけ、子どもは今の生活から抜けられなくなっているということ
- 今、がんばらないと、ますます、言うことを聞かせられなくなるということ

ではないでしょうか。実は子どもは、何が大切か分かっています。分かっている「えー」と言うときがあります。大人が、がんばって押さないといけな場面ではないでしょうか。

総会でお話したこと③ ～最後はお願い～

「どの子にも力をつけるためのお願い」=力の凸凹の話=

人には得意もあれば苦手もあって、持っている力にも凸凹があります。ですから、子どもによって、その子にあう勉強の仕方違うはず。そして、その子にあった勉強の仕方が必要であれば用意してあげたいと考えています。

どうでしょう。なかには、「勉強が難しくなってきたな。」という子はいないでしょうか。子どもには、

- ・とても音に敏感で静かな場所だと勉強がスラスラ分かるという子
- ・ゆっくりと先生と1対1でお話をしながら進めるとよくわかるという子
- ・練習問題をたくさんやるが必要な子や1つの問題をじっくり考える方が必要な子

など、いろいろです。

そのような中、種市小学校には、どんな勉強の仕方がよいか一緒に考えてもらったり試してみたりする「まなびの教室」があります。ことばの発音を直す「ことばの教室」もあります。また、これまでも、子ども達に力をつけるために、何人かの先生で教える教え方、いくつかに分かれて教える少人数指導を行ってききました。少人数指導だって、半々に分かれるとは限らないと思っています。例えば 20 人の学級なら、5対15というのもあり得ると思っています。必要と希望があれば、場所をかえて1対1の個別の授業も行おうと考えています。どんな形であれ、その子に力をつけることが大事です。

お願いしたいのは、

「その子にとって必要な勉強の仕方をするのですから、他の大勢の子どもと違う勉強の仕方だからといって、恥ずかしいことだと思わないでいただきたい。」ということです。その子のおうちの方も、周りのおうちの方もです。相談することも、恥ずかしいと思わないで相談していただきたいのです。そうでないと、その子にしてあげられることをしてあげられなくなって、力をつけるどころか可能性をつぶしてしまうことになってしまわないでしょうか。

子ども達には、珍しがったりバカにしたりするようなことをするのぞないを教えてください。

全校朝会でも子ども達に、

校長が「ことばの教室」に通っていたことをお話しました。〈概要〉

小さい頃から「ドモリ」で、思ったように言葉が出てこないで、音読も役員への立候補もしたことがなければ、電話もできないし口げんかも負けてばかりでした。

小学校に入る前、母親に「いつも行っている病院に連れて行ってほしい」と泣いて迫ったそうです。病院に行くと薬をもらえばなおしてもらえらると思っただけなんです。

小学校2年生の時、担任の先生がとなりの学校の「ことばの教室」に通うことを勧めてくださいました。でも、何度か通いましたがなおりませんでした。

ですから、この学校でも、「ことばの教室」で学習して発音が上手になっていく子を見て「よかったな」思うのです。校長先生もなおしたかったです。友だちと違う場所に行って勉強や練習をしたりしたとしても、それは、なおすため自分のためになるのですから、出かけて行ってなおしたかったです。

人には力の凸凹があります。その人に必要な勉強もやり方も違うのです。種市小学校では、どの人も自分にあう勉強ができるようにしたいと考えています。そうやって、どの人も力をつけてほしいのです。

ですから、勉強の仕方が違うからと言って、バカにしたり笑ったりしてはいけません。

校長先生の友達は、バカになどする人はいませんでした。むしろ、一生懸命に聞いてくれて、引っかかりながら話し終えるのを最後まで待ってくれました。

ですから、みなさんも、人と同じか違うかではなく、できるかできないかでもなく、「がんばっているかどうか」を見ましょ。そして、がんばっている人を応援してあげられる人になりましょ。応援してあげるとは、「分かってあげること」です。うまく言えない人の「言いたいことを分かってあげること」、うまくできないでいる人の「できた分をほめてあげること」です。

どの人も力をつけられるように、種市小学校をそんな学校にしたいのです。

子ども達は一生懸命聞いてくれました